

# 食文化の継承と世代間関係 - 「正月料理」の変化を通して

## ○塩谷 幸子 (お茶の水大. 院)

<目的> 本研究の目的は、正月料理の調査を通じて食文化の世代間継承に影響する要因を把握し、継承に関わる家族・世代間の関係と問題について考察することである。

<方法> 都市部と山漁村部の多世代同居世帯 50 事例の 3 世代の女性を対象として質問紙と直接面接調査を実施し、1998 年の正月に各家庭で用意した料理品目と各世代の調理への参加状況、継承意識、食文化の背景となった家族関係・家族史等について調査した。

<結果> 調査の結果、料理の実施状況には、手作り度、市販品の利用度、伝統料理、夫側・妻側から継承した料理品目数等に地域・同居形態別に差があり、継承意識とも関連していることが明らかとなった。食文化の継承要因として、世代間の共同調理や共食の機会を持つこと、家族・世代間の絆の確認、生家への出自の誇りや食文化への拘りを持っていること、母・祖母への愛着、伝統文化や生活のけじめの重視等が挙げられた。断絶要因としては、主調理者が嫁・家庭内役割による調理への負担感や不満を持っていること、世代間に葛藤があること等が挙げられ、背景として家庭内の人間関係的要因が影響していることが明らかとなった。最も大きい継承要因である共同調理・共食の機会は、世代間の関係と家族のあり方の総合的な結果であり、相互に影響し合っていることが判った。G3 世代はそれらの家庭内の背景や諸要因を反映しつつも、多様化した価値観を持ち、世代間関係も客観的に評価し、総合的に判断して継承・断絶の回答をしていた。